

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892600103		
法人名	有限会社ケアサポートかさい		
事業所名	第二グループホーム銀の鈴		
所在地	兵庫県加西市畑町千軒寺46-1		
自己評価作成日	令和4年5月24日	評価結果市町村受理日	令和4年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2892600103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和4年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>介護職員は、認知症ケアの経験を生かした支援を行うことでご家族との信頼関係を築くことが出来ています。「最期まで住み続けたい」との思いを、かかりつけ医による往診・訪問看護・歯科往診・かかりつけ薬局の薬剤師と相談等、医療との連携を取り、「安心と安全」「早期発見・早期治療」に取り組んでいます。日常の何気ないちょっとした「気付き」を大切に、職員間で入居者様ひとり一人に合わせたきめの細かな対応を心がけ支援に当たっています。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小規模多機能ホームが併設されている平屋建ての事業所である。玄関入口付近には幾つものプランターに季節の花々が咲きほこり、事業所内にも季節の花々が飾られ環境整備がみごとである。「家庭的な環境の中で、地域とともに生活をし……」の理念のもとに、お一人おひとりの状況に合わせて介護サービスが提供されている。日常の健康管理はいうに及ばず、医療連携体制が構築されて重度化及び看取りに係る支援が整っており、家族や職員に安心と信頼を与えていることがうかがえる。お一人おひとりを尊重して、ご利用者に依頼形で「…しましょうか」と声掛けが行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で馴染みのある環境の中で「ひとり一人の状況に合わせた支援」の理念を職員間で共有している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念・方針を玄関に掲示するとともに職員の名札に入れ、リビングや掲示物でも掲示し誰にでも確認できるようにしている。理念に沿った支援は行っているが振り返りまでには至っていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域の行事には参加できていないが、居室内からの挨拶や、高峰神社での初詣、秋祭り等を通じて、地域の方との交流が行われている	新型コロナウイルス感染症の影響で、地域行事には参加できていないが、地域の人と窓越しにあいさつしたり触れ合う機会はある。自治会加入はできていないが、自主的に近くのあぜ道の草刈りなどは行っている。	7月に行われる運営推進会議に参加される地域役員の方々や市の職員からの意見を聞きながら、事業所で取り組める地域交流事業などに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症により介護支援を必要とする地域の方の受け入れを行ったり、認知症についての理解や支援の方法など、ご家族に伝え生かしてもらうことで地域貢献の一つとして考えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大防止の観点から現在は開催していない	運営推進会議はコロナ渦のため今は行われていない。今年度7月に開催予定がある。できれば定期開催に臨みたいとの意向がうかがえた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターと連携し、サービス上必要な相談や助言を頂いたり実情を伝えたりして協力をお願いしている	市の担当者とは書類関係でアドバイスをもらったり、サービス内容のことを相談したり、実情を伝えるなど日頃から協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に関する指針」に基づき、拘束を安易に正当化することなく、言葉や対応等で精神的な自由を妨げることのないように取り組んでいる。また3か月に一度、指針に基づき研修を行っており、身体拘束をしないケアを継続できるよう職員間で情報共有している	身体拘束廃止に関する指針を掲げ、検討委員会が3か月に1回開催され、研修が年2回虐待防止の研修と共に行われている。身体拘束をしないケアに努めているが、まだ玄関の施錠は行われている。今後は時間帯に配慮しながら開錠する取り組みが望まれる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待となるような言動が見過ごされることのないよう注意を払い、自らの言動が虐待につながるよう日ごろのケアの見直しを行っている。また職員間で気軽に悩みなど話し合う機会を作っている	虐待防止の研修を行い、不適切なケアや言葉遣いなどに気を配り、虐待に繋がらないように努めている。職員のストレスをためないように日頃から管理者が話し合う機会を取っている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、権利擁護の基本的視点となる、高齢者の権利、人間らしい生活を送ることが出来るよう、認知症であっても尊厳に配慮したケアが受けられるよう支援している	成年後見制度を利用される利用者はおられない。今年度7月に管理者、リーダーが権利擁護に関する制度の研修を受講する予定になっている。パンフレット設置や職員の研修までには至っていない。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に沿って説明させていただき、疑問点や不安に思われる事は納得が得られるよう十分に説明させて頂いている	契約前には事業所内を見学していただき、サービス内容や料金について重要事項説明書などを用いて丁寧に説明し納得・理解の上で契約をしている。また看取りの指針を説明し、事前確認要望書で緊急時や重度化した場合について意向を確認している。1年ごとに事前確認要望書を再度確認されている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、ご意見、ご要望シートを活用し、運営に反映させている。以前は外部の助言を聞く機会として「あったか相談員」の受け入れを行っていたが、現在はコロナ禍により受け入れができていない	「苦情・ご意見・ご要望カード」を用いて運営に活用されている。市の取組みである、「あったか相談員」の受け入れをされ、利用者からの意見を汲み取って頂いていたが、コロナ渦のため、最近では受け入れをしていない。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からスタッフの意見や提案に耳を傾けている また研修会やミーティング後に意見や提案を聞く機会を設け反映している。管理者が介護現場にいて介護職員と情報交換しケアの統一や方向性の確認がしやすい。また、情報交換する中で出た意見をまとめて代表者への相談も行っている	職員会議は、毎月行う予定ではあるが、行えない月もある。職員からの意見を聞き、サービス内容や運営に取り入れたいとの管理者の意向がうかがえた。職員からの意見は日頃から聞き、改善出来るように努めている。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当の見直しにより、職員がやりがいを持って働けるようにしている また労働時間や休日の希望を聞き働きやすい環境を作っている		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、外部のセミナーや研修会の参加はできていないが、施設内での研修の他、アプリを使った研修を行い、自己のキャリアアップにつなげている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、グループホーム連絡会は現在は開催されていないが、地域の情報や、サービスにつながる情報等の意見交換はその都度行っている			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ニーズをしっかり把握し、これまでの生活が継続できるよう支援をすることで少しでも不安を軽減できるよう務めている			
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを聞き、本人のニーズと照らし合わせながら安心して生活していただけるよう支援していく方向性を話し合うようにしている			
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から聞き取りや見学を行い、必要に応じて適切なサービスに結び付けるようアドバイスを行っている			
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を払い信頼関係を深め思いやりの心を持って共に過ごし、安心できる環境づくりを行っている			
19			○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも家族としての役割を大切にしていだきよう支援を行っている。コロナ禍により、外出、面会の制限はあるが、電話や必要に応じて病院受診等の支援に関わって頂くことで共に支える関係を築いている			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、以前のように行き来は出来なくなったが、本人がこれまで大切にしていた人との関係が途切れないよう電話や手紙等で関係が維持できるよう支援を心がけている	以前は友人などの訪問もあったが、コロナ渦のため双方で自粛されている。これまでの関係継続のため、電話や手紙などで支援されている。家族の通夜などに参列された事例をうかがった。今月19日より、事前予約による窓越しでの家族面会を開始する予定がある。		

自己 者 第	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が互いの部屋へ訪問し、誘いあったり世間話するなどの関係が出来ている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院で退去される方にも入院中の相談やその後のご様子を伺うなどの対応を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えられる方には、しっかりと思いや生活に対する意向を確認し、はっきりと思いを伝えられない方に対しては、日常生活の中で少しでも思いを感じとれるよう努めている	アセスメントを用いて意向を把握している。意向の把握が難しい方には、簡単な質問形式にし、表情で理解したり、日頃からの気づきで確認している。毎朝のミーティングで気づいたことを職員間で共有されている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけこれまでの暮らしが続けられるように情報を職員間で共有し意識しながらアセスメントを行っている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人とお話や介護職員からの聞き取りをこまめに行い、現状を把握するように努めている		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記の方法で把握した状況をもとにカンファレンスやミーティングを行いながら介護計画を行っている	介護計画は、介護計画作成担当者が利用者や家族の意見・要望を聞き、担当者会議を開き職員間で話し合い作成している。3か月に1回モニタリングを行い介護計画の評価を行っている。サービス内容の確認はタブレットで職員が行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を本人の言動やその時の状況に視点を当てて細かく記入することで誰が見てもわかる記録にしている。また毎日のミーティングで情報共有を行い介護計画の見直しにつなげている		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだけでは支えきれない場合、併設の小規模多機能の協力を得ながらニーズに合わせた支援ができるようにしている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域行事が中止となっているが、再開すれば地域の方の協力を得て地域活動に参加できるよう支援したい。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、協力医療機関のかかりつけ医が定期的に往診している。往診の際には、些細なことでも相談できる状況にある。急変時等には、24時間体制で指示を受け対応している。また個々のかかりつけ医の受診、指示を受けての緊急時の受診等、適切な医療が受けられるよう支援している	家族の意見を伺い、協力医の変更が行われている。月2回協力医の往診を受けられている。ケアのアドバイスや意見を頂き健康管理がなされている。毎週1回訪問看護を利用されている。訪問歯科を利用されている利用者もおられる。急変時の対応や他科への紹介など協力医による適切な医療を提供されている。他科受診に関しては家族の協力を得ている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師の定期訪問による健康チェックを受けている。その際、状況報告や生活の中での気になることへの相談も行っている。また緊急時には、オンコールでの相談を行い医療的な助言をもらっている		
32 (15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院時の情報提供や早期退院に向け、早い段階から状態把握のための情報交換、オンラインでのカンファレンス参加等の連携を行っている	入院時にはサマリーなど必要情報を医療機関に提供し、介護計画作成担当者が地域医療連携室や協力医などと相談し退院後の生活について進められている。コロナ禍時には電話やオンラインで情報交換などの連携に努めていた。最近の入院者はいない。	
33 (16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化、看取りに対しての意向確認を行い、状態に応じ何度も話し合いを重ねながら、必要に応じて医療関係者も含めたチームで支援が行えるよう取り組んでいる	看取りの指針が明確になっており、1年ごとに意向確認を取りなおし、職員の看取り研修が行われている。看取りをされた事例もうかがえた。看取り後の振り返りやグリーフケアなども今後していきたいとの管理者の意欲がうかがえた。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えた初期対応マニュアルに沿って適切に行えるよう訓練を行っている。また事故発生時にも冷静に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害支援要請網を作成し、災害の際には地域の方の協力を頂き速やかに安全に避難できるよう年2回避難訓練を行っている。また地域の代表の方にも可能な限り参加していただけるよう依頼している	年に2回火災訓練が昼夜間を想定して行われている。災害マニュアルを作成しハザードマップで確認している。防災に関して地域協力などもお願いされ、備蓄なども準備している。他の災害について話し合い対応できるよう取り組んでほしい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方の思いに沿った支援を心がけることで個々として尊重し、プライバシーに配慮した対応を行っている	一人ひとりの意向に沿って支援している。言葉かけに対しては指示形を使わずに「～しましょうか？」など依頼形を基本とし意思確認に努めている。入浴や排泄時にはプライバシーに配慮した支援が行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	運営理念に沿って、依頼形と穏やかな口調で伝えることで、自己決定できるよう支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごせるような雰囲気を作り、活動参加も強制するのではなく、参加の有無もその都度お聞きしながら思い思いに過ごしていただけるように支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服を選んでいただいたり、入浴の前に一緒に服を選んでいただいたりしている。また認知症でうまく身支度できない時は一つ一つ声掛けしながら一緒に行っている			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや下膳・洗い物等それぞれの能力に応じてできることを一緒にしていただけるよう努めている	食材は業者に発注し、職員が献立作りと調理を行っている。職員がプランターで育てた野菜(おくら、ねぎ、大葉、パセリ、いんげん豆など)を食材として使ったり、利用者の好みのものを献立に織り込んだり、ちらし寿司、巻き寿司、そうめんなど、季節に応じた献立を取り入れたりして食事を楽しむ工夫が行われている。利用者は洗い物、後片付けなどの作業で持てる力を発揮されている。コロナ禍以前は利用者と職員は一緒に同じ食事を取っていたが、今はできていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はきちんと把握し、課題が生じたときには、どうすれば摂取できるか等、その都度相談しながら支援している。			

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況をそれぞれ把握し、毎食後の口腔ケアには自立の方にも必ず見守りと声掛けを行い、適切な形で支援を行っている。口の中の変化や訴えを聞き、状況により指定協力歯科医に往診依頼を行い診察して頂いている。また週一回のチェック項目の記入や、歯科Drの助言を参考にし口腔ケアを行っている。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ日中はトイレでの排泄が行えるよう支援を行っている。またさりげなく声掛けや汚染の確認を行いながら不快に過ごされる時間を少なくするように努めている	排泄の自立に向けた支援が行われている。排泄チェック表は作成してはいるが、タブレットで一人おひとりの排泄のパターンを把握しており、羞恥心に配慮してトイレの声掛けやトイレ誘導を行い、結果を個別データとして入力して管理されている。おむつを使用されている方一人を除いて全ての利用者が紙パンツが布パンツを使用されている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動促したり、必要に応じて主治医・看護師と相談しながら排便コントロール行っている		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立で入浴できる方がおられず、好きな時間帯に入浴していただくのは難しい部分もあるが、決められた時間の中であれば、希望の時間帯に入浴していただけるよう配慮している	利用者の希望に沿って週2回午前中の入浴が行われている。介護度の高い方には2人介助が行われている。清拭やシャワーが取り入れられることもあり、柚子湯で入浴を楽しむ工夫もされている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間にお部屋に戻っていただけるようにしており、思い思いの時間に就寝・昼寝ができるよう支援している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局の薬剤師から薬の説明、副作用や注意すべき点について指導してもらい理解するよう努めている。服薬の支援については、マニュアルでの取り決め通りに介助を行うよう統一し誤薬事故を防ぐ取り組みを行っている。処方薬に変更があった際には、特に注意を払い服用後の状況を把握し、医療と連携するようになっている。また、長期間服用している場合において日常生活に変化がないかの観察も行っている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと等の把握を行い、役割につなげていけるよう支援を行っている。季節感を味わっていただくため、毎月のカレンダー、壁面の飾り制作は定着し入居者の皆さんにも喜んでいただいている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は、散歩や外出、買い物、ご家族との外出や外食なども希望に応じて行っていたが、現在はコロナ禍により機会が減っている。その中でも、地域の神社への初詣や、花見など出かけることで少しでも季節感を味わい気分転換をし過ぎていただけるよう支援を行っている	コロナ禍の影響を受けて外出の機会はほとんどない状況であるが、高峰神社への初詣や花見の折には出かけるようにして季節感を味わうと共に気分転換の機会として外出支援が行われている。また、眼科受診や法事の時には家族により外出が行われている。今、紫陽花がきれいな季節であり、外出を検討している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを回避するため、現金の持参を控えている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話や手紙のやり取りをすることが難しくなっている方もおられるが、希望があれば職員付添のもとで電話して頂いたり、送られてきた手紙と一緒に読むなどの支援を行っている			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な住環境を重視し、四季の鉢植えやプランター野菜をリビングから見てもらい季節を感じてもらったり、有線放送や音楽をかけ居心地良く過ごせるよう工夫している。毎月カレンダー作りや壁面の飾り制作で季節感を味わっていただくよう工夫している	玄関、廊下、居間兼食堂、トイレ、浴室などの共用空間は掃除がいきとどいてきれいである。明るさ・温湿度は適切に管理されており、不快なおい・音は全くない。季節の花が玄関、洗面台、居間兼食堂などに豊かに飾られ、壁には、紙細工で作られた巨大な「はばたんとさぎ」の作品が和やかな雰囲気を与えており居心地よく過ごせる空間づくりの工夫がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで日中過ごされることが多いが、個々に気の合う入居者同士での談話やレクリエーションへの参加をされたりしている。少し休みたい時にはいつでもお部屋に戻れる環境を整えている			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、本人が大切にされていたものや写真・置物などを持ち込んで頂くことで居心地よく過ごしていただけるようにしている	居室は明るく清潔でゆったりとしている。利用者の使いなれた馴染みの小机、電気スタンド、テレビ、物入などが持ち込まれ本人が居心地よく生活できる配慮が行われている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症があっても、生活しやすいトイレや居室に目印をつけたり、動作しやすい環境を整えることで安全に自立した生活ができるように支援している			